

(様式1)

大 学 名	東京大学	学 問 分 野	人文科学
専 攻 等 名	基礎文化研究専攻		
拠点のプログラム名称	生命の文化・価値をめぐる「死生学」の構築		
拠点リーダー氏名	島 園 進	所属部局・職	大学院人文社会系研究科教授
プログラムの概要	人間の「生」ならびに「死」という、永遠の、またとりわけて現在のな問題を再検討することで、人文科学的視点に立って新たな「死生学」の構築を目論み、臨床的な知と連携してゆく端緒を開こうとする。		
拠点形成の目的・必要性	「生命」が生み出す倫理的問題、「死生」に関わる形象の文化的・歴史的広がり、「死生」をめぐる宗教的価値観、「生命活動」の発現としての人間、これら4つがプログラムの柱となる。死をめぐる問題の考察は現在では、戦争と革命の世紀であった前世紀の経験、その経験を多様なかたちで保存しようとする試みとも無縁ではありえない。基礎文化研究専攻では、従来の区分でいえば宗教学や美術史学、またとりわけ文化資源学専攻が、このような視点からの研究を積みかさねてきている。そうした成果が、生命をめぐる諸問題の生理学的・臨床的研究と結合されるとき、欧米の諸研究とは一線を画する、新たな死生学が生まれることになるであろう。		
研究拠点形成実施計画	以下の4つの具体的なサブテーマを設定する。1「死生学の実践哲学的再検討」では、身体論、行為論、所有論といった実践哲学的問題群を、「死生学」という枠組みの中で再検討する。2「生と死の形象と死生観」では生と死がどのように表現され、社会からどのように扱われ語られてきたかについて、その歴史と現状を研究する。3「死生観をめぐる文明と価値観」では死生観をめぐって諸文明の宗教的基盤とその価値観について理解する枠組みを設定する。4「生命活動の発現としての人間観の検討」では生命活動の発現としての神経活動や脳活動を明確に記述し、身体的・精神的活動としての生を検討する。		
教育実施計画	「死生学」は人類永遠の課題と現代急務の課題の双方に取り組む。教育計画は生命の倫理・文化・価値を問う理念的なアプローチと、そこでの研究成果を現実の社会に還元する実践的なそれとに分れる。前者の中核は多分野交流演習に「死生学」のプログラムを設定すること、応用倫理教育プログラムを拡大発展させることであり、後者の中核は展覧会「生と死の形象」の企画開催である。また複数のシンポジウム、セミナー、研究会等を開き、企画から運営にPDを参加させ、教育経験の機会を作り出す。その成果は、臨床的場面での倫理的判断力を養い、また文化関連諸機関における企画・管理・運営を実践的に修得することにも通じるであろう。		

生命の文化・価値をめぐる「死生学」の構築

4つのサブテーマ

